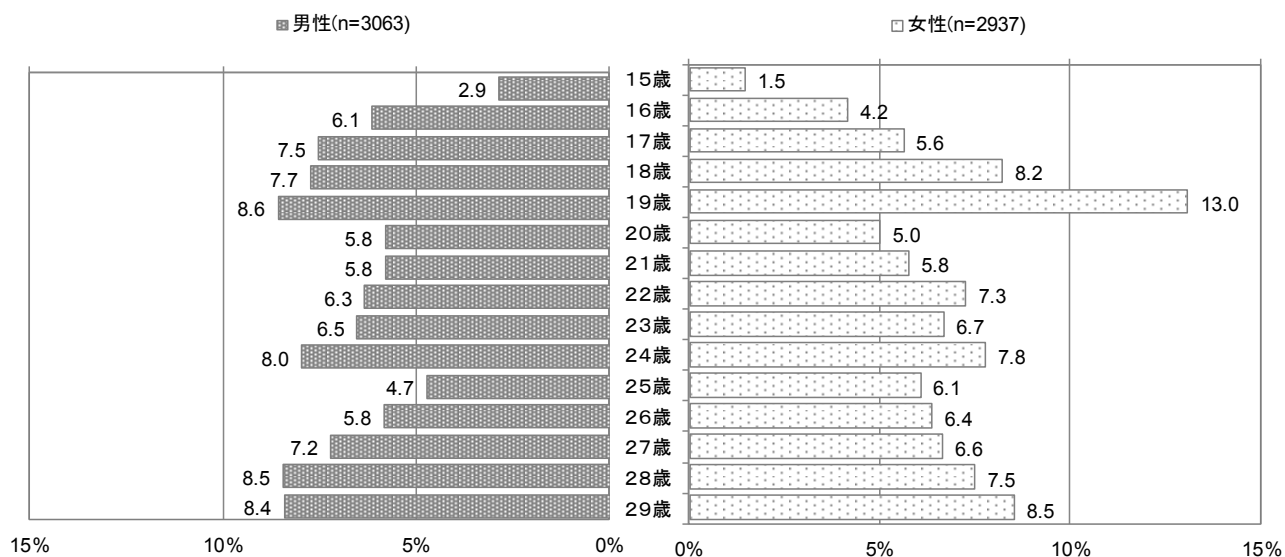


第2部 調査の結果

第1章 調査結果要約

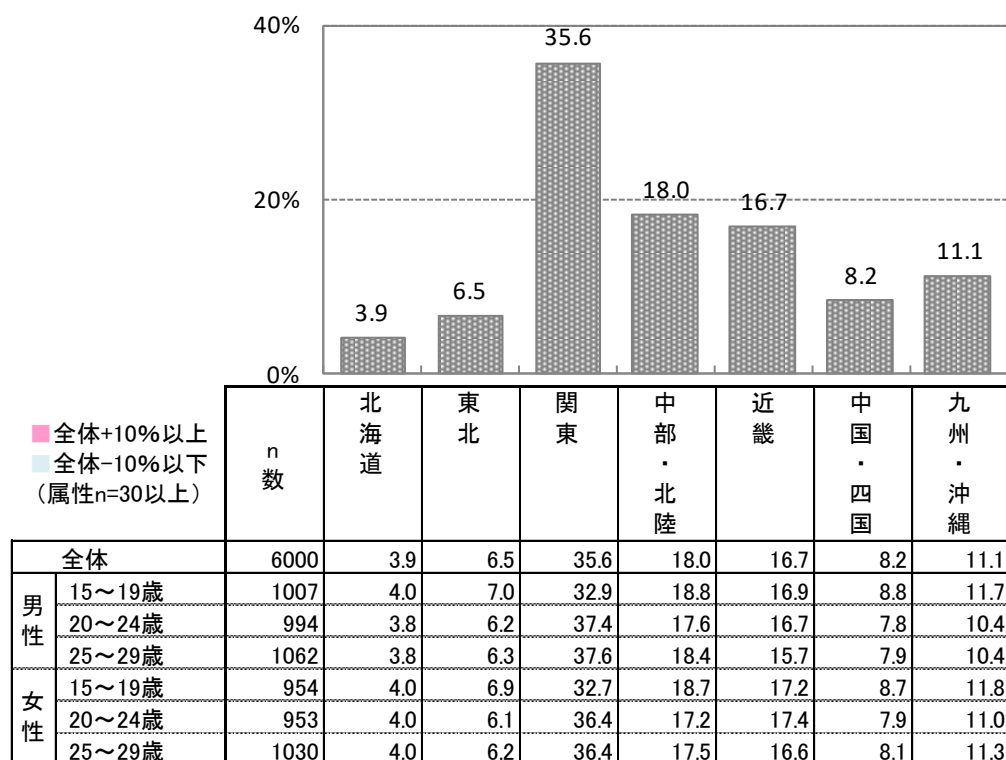
1 回答者の性別年齢

図1



2 回答者の居住地域

図2



3 回答者の職業と就業状況

図 3

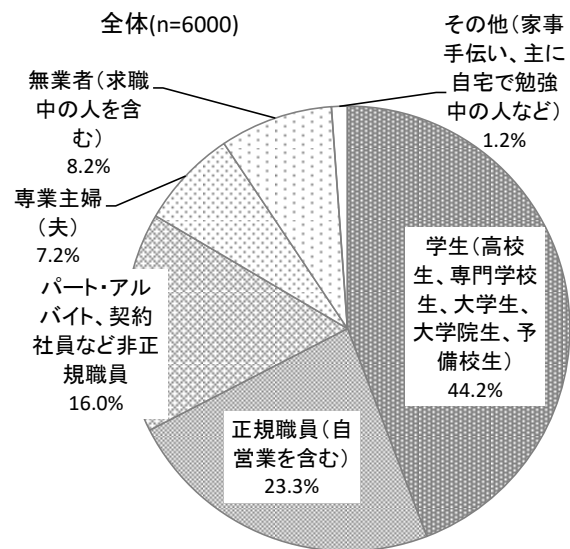
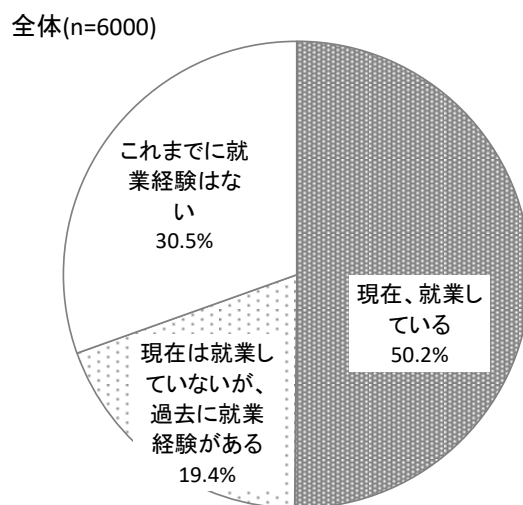
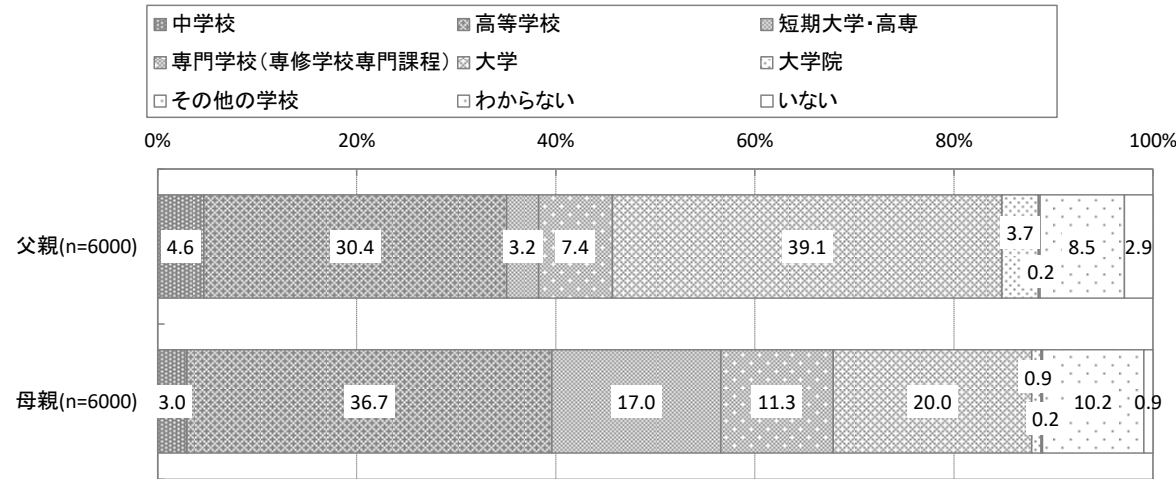


図 4



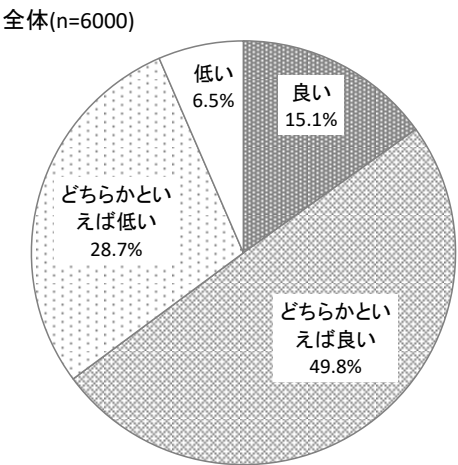
4 親の最終学歴

図 5



5 現在の暮らし向き

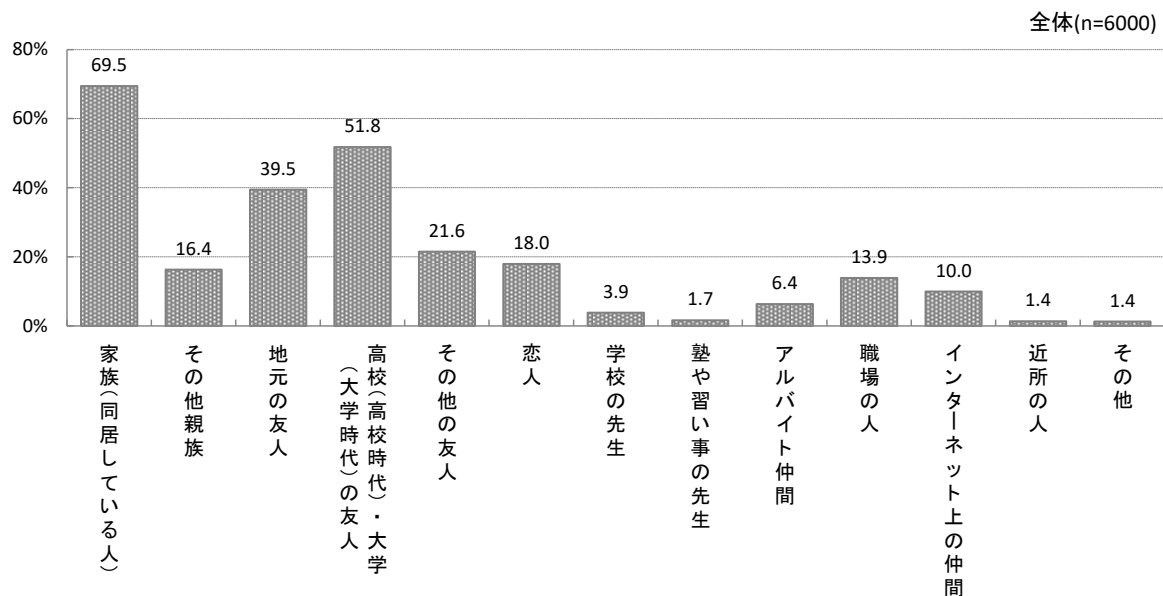
図 6



6 日常生活での接触相手

日常生活で最も接触している相手は、「家族（同居している人）」（69.5%）が最も高く、次いで「高校（高校時代）・大学（大学時代）の友人」（51.8%）、「地元の友人」（39.5%）、「その他の友人」（21.6%）、「恋人」（18.0%）、「その他親族」（16.4%）、「職場の人」（13.9%）、「インターネット上の仲間」（10.0%）と続く。

図 7

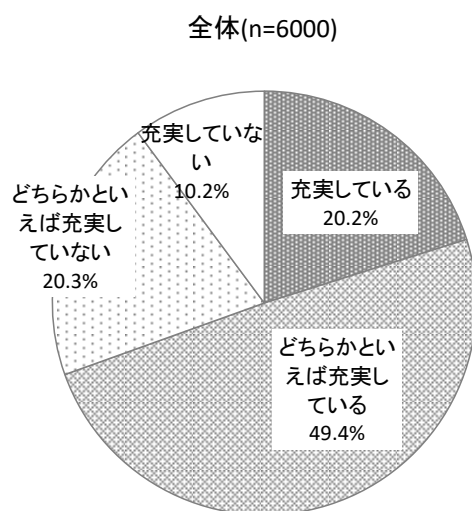


7 充実度

（１）現在実感している生活の充実度

現在実感している生活の充実度について、「どちらかといえば充実している」が 49.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば充実していない」が 20.3%、「充実している」が 20.2%、「充実していない」が 10.2%と続く。

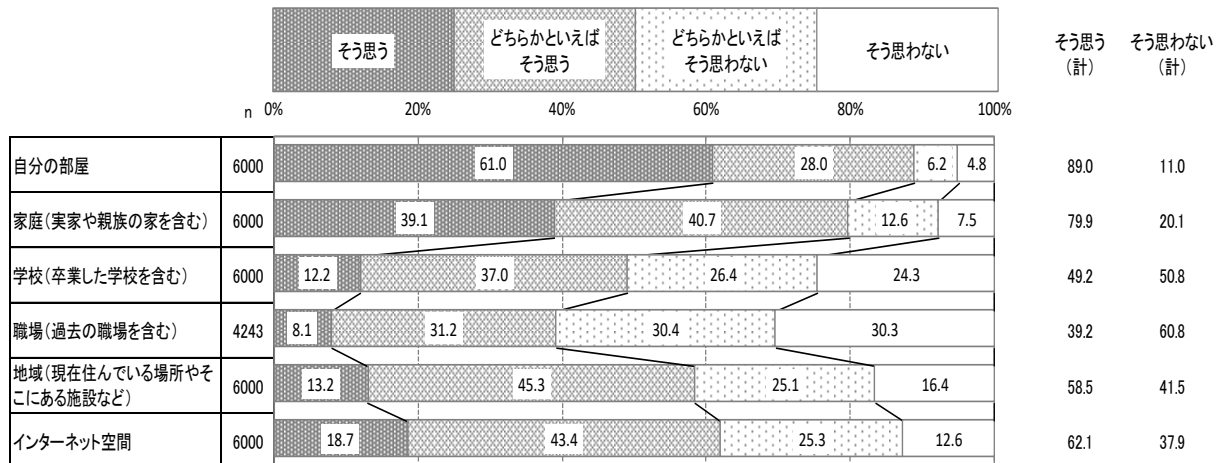
図 8



(2) 居場所ごとの満足度

ほっとできる場所、居心地の良い場所として、「そう思う(計)」「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が最も高いのは、“自分の部屋”(89.0%)。次いで“家庭(実家や親族の家を含む)”(79.9%)、“インターネット空間”(62.1%)と続く。

図 9



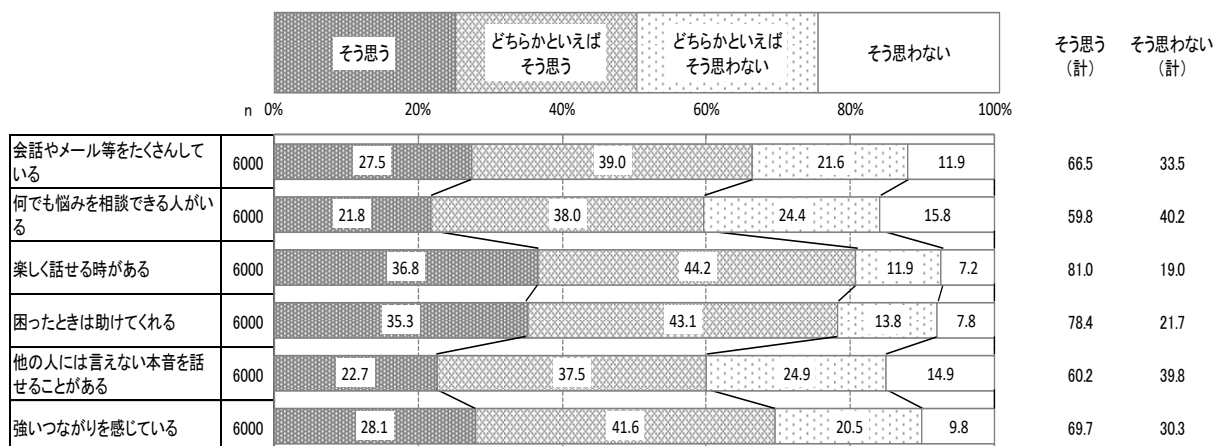
※「職場(過去の職場を含む)」は就業経験者のみ回答。

8 他者との係わり方

(1) 家族・親族との係わり方

家族・親族との係わりとして、「そう思う(計)」が最も高いのは、“楽しく話せる時がある”(81.0%)。次いで“困ったときは助けてくれる”(78.4%)、“強いつながりを感じている”(69.7%)と続く。

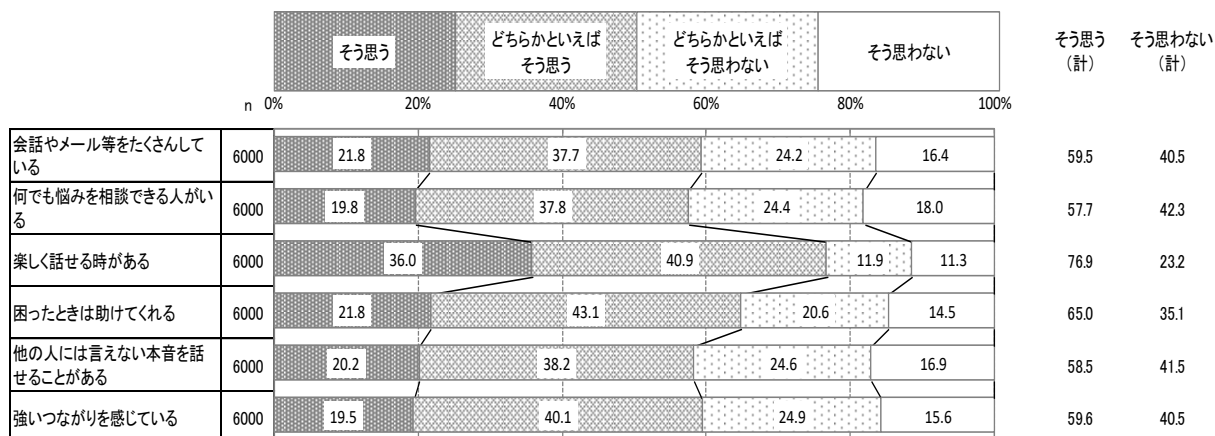
図 10



（２）学校で出会った友人との係わり方

学校で出会った友人との係わりとして、「そう思う(計)」が最も高いのは、“楽しく話せる時がある”(76.9%)。次いで“困ったときは助けてくれる”(65.0%)、“強いつながりを感じている”(59.6%)、“会話やメール等をたくさんしている”(59.5%)と続く。

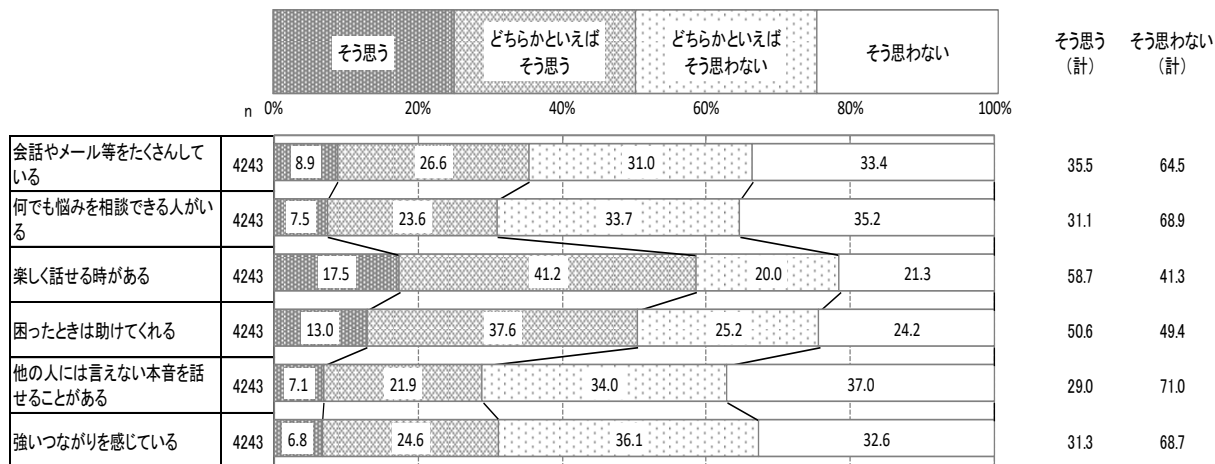
図 11



（３）職場・アルバイト関係の人との係わり方

職場・アルバイト関係の人との係わりとして、「そう思う(計)」が最も高いのは、“楽しく話せる時がある”(58.7%)。次いで“困ったときは助けてくれる”(50.6%)、“会話やメール等をたくさんしている”(35.5%)と続く。

図 12

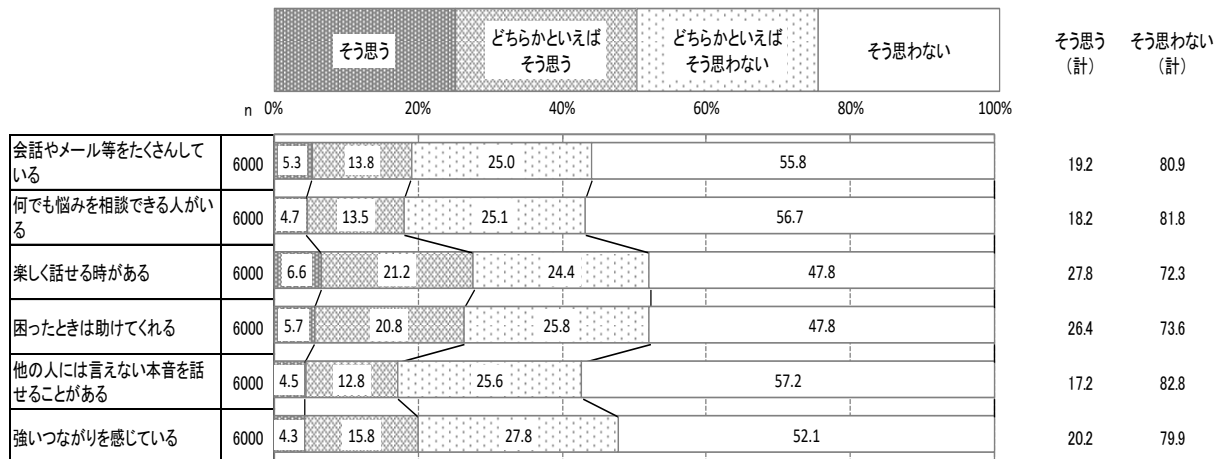


※就業経験者のみ回答。

(4) 地域の人との係わり方

地域の人との係わりとして、「そう思う(計)」が最も高いのは、“楽しく話せる時がある”(27.8%)。次いで“困ったときは助けてくれる”(26.4%)、“強いつながりを感じている”(20.2%)と続く。一方、「そう思わない(計)」（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）」が最も高いのは、“他の人には言えない本音を話せることがある”(82.8%)。次いで“何でも悩みを相談できる人がある”(81.8%)と続く。

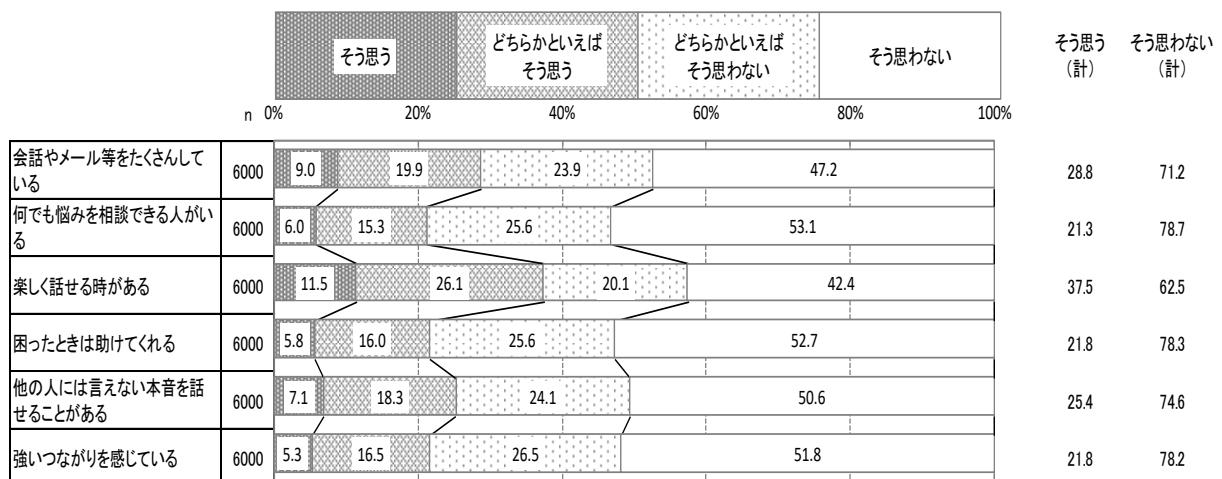
図 13



(5) インターネット上での他者・コミュニティとの係わり方

インターネット上での他者・コミュニティとの係わりとして、「そう思う(計)」が最も高いのは“楽しく話せる時がある”(37.5%)。次いで“会話やメール等をたくさんしている”(28.8%)、“他の人には言えない本音を話せることがある”(25.4%)と続く。

図 14

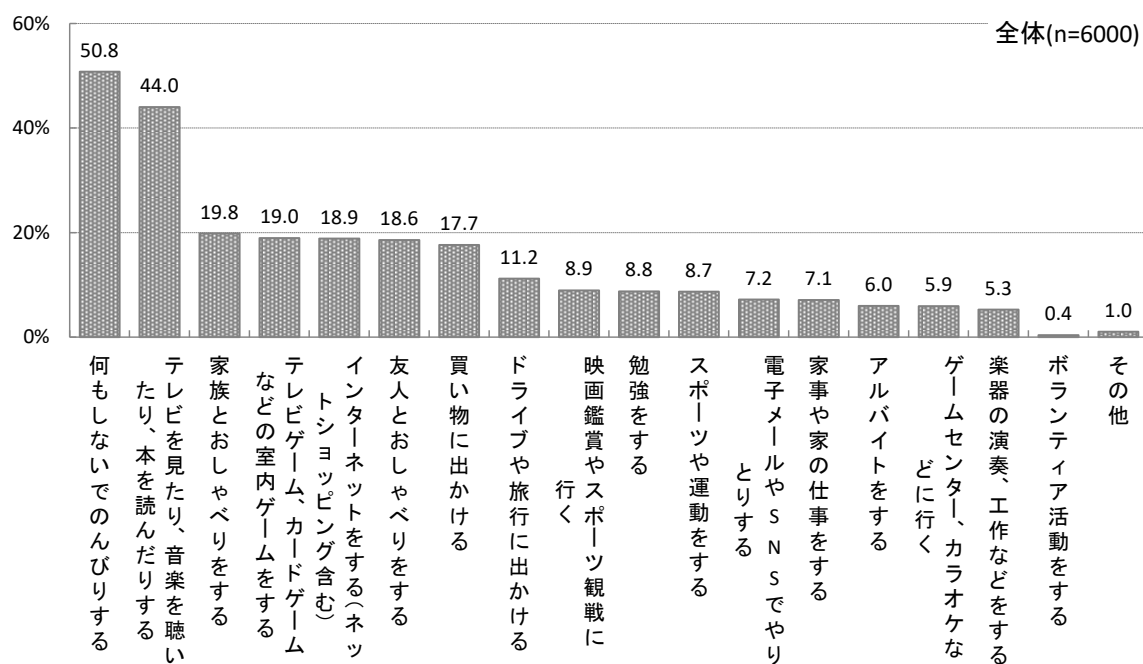


9 ひとり時間の過ごし方

(1) ひとり時間の過ごし方

ひとりの時間の過ごし方については、「何もしないでのんびりする」(50.8%)が最も高く、次いで「テレビを見たり、音楽を聴いたり、本を読んだりする」(44.0%)、「家族とおしゃべりをする」(19.8%)、「テレビゲーム、カードゲームなどの室内ゲームをする」(19.0%)、「インターネットをする(ネットショッピング含む)」(18.9%)、「友人とおしゃべりをする」(18.6%)、「買い物に出かける」(17.7%)、「ドライブや旅行に出かける」(11.2%)と続く。

図 15

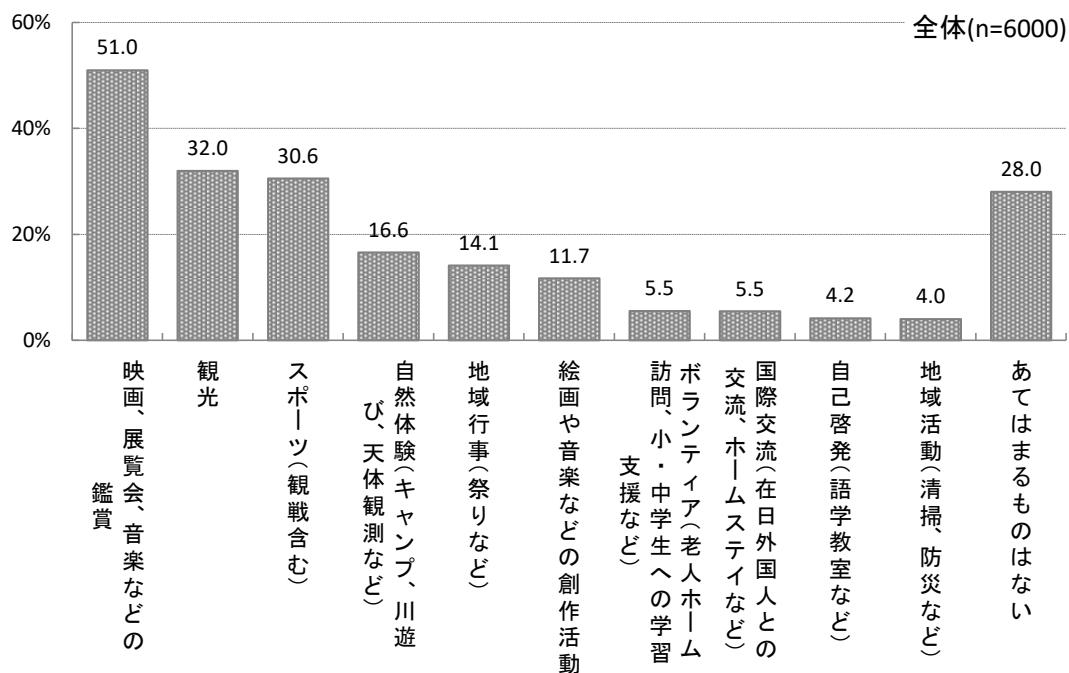


10 学校や職場以外で他者で行う活動

(1) 学校や職場以外で他者で行った活動内容

ここ数年（2～3年）以内に学校や職場以外で他者で行った行動内容については、「映画、展覧会、音楽などの鑑賞」が51.0%と最も高く、次いで「観光」が32.0%、「スポーツ（観戦含む）」30.6%、「自然体験（キャンプ、川遊び、天体観測など）」（16.6%）、「地域行事（祭りなど）」（14.1%）、「絵画や音楽などの創作活動」（11.7%）と続く。

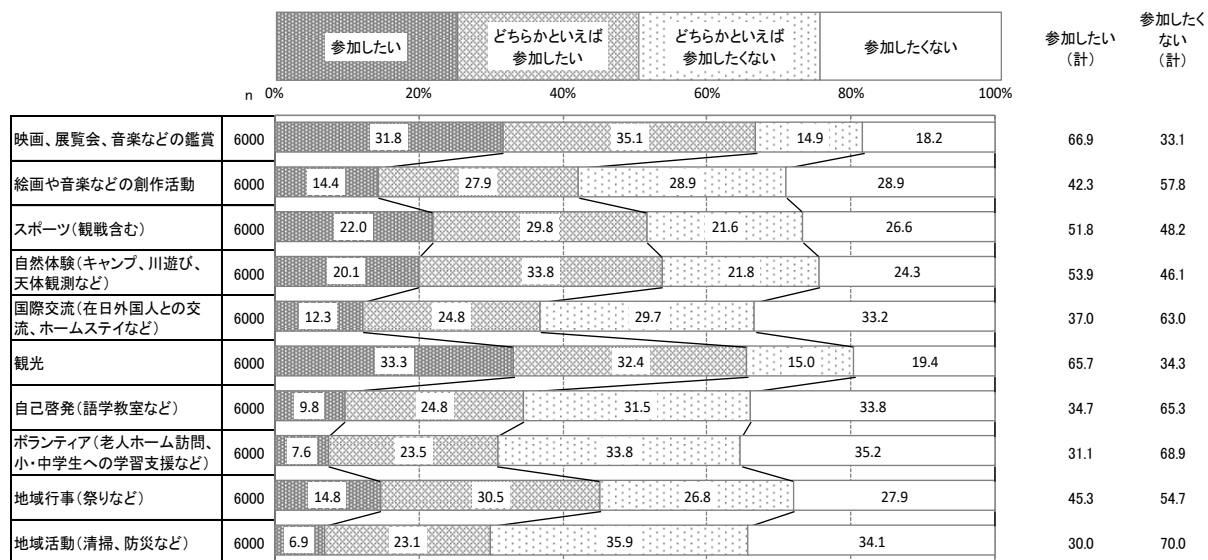
図 16



（２）学校や職場以外で他者と行ってみたい活動

学校や職場以外で他者と行ってみたい活動として、「参加したい(計)」が最も高いのは“映画、展覧会、音楽などの鑑賞”(66.9%)。次いで“観光”(65.7%)、“自然体験(キャンプ、川遊び、天体観測など)”(53.9%)と続く。一方、「参加したくない(計)」が最も高いのは、“地域活動(清掃、防災など)”(70.0%)、次いで“ボランティア(老人ホーム訪問、小・中学生への学習支援など)”(68.9%)、“自己啓発(語学教室など)”(65.3%)と続く。

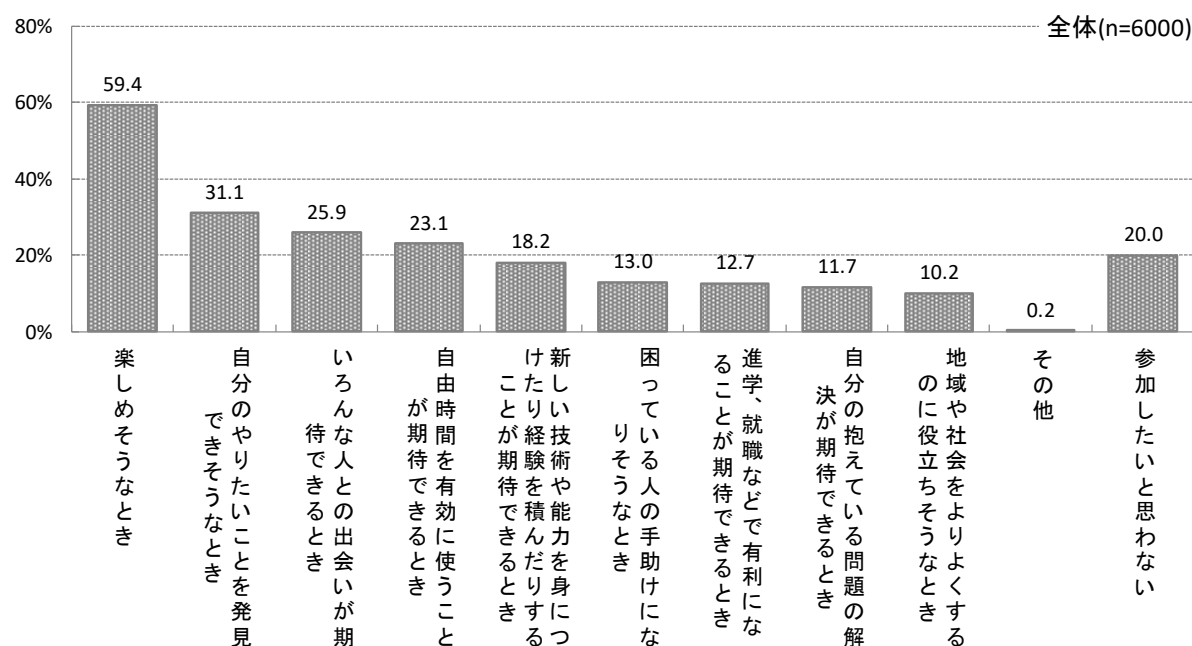
図 17



（３）学校や職場以外で他者と活動を行いたい場面

学校や職場以外で他者と活動を行いたい場面について、「楽しめそうなとき」(59.4%)が最も高く、次いで「自分のやりたいことを発見できそうなとき」(31.1%)、「いろいろな人との出会いが期待できるとき」(25.9%)、「自由時間を有効に使うことが期待できるとき」(23.1%)、「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりすることが期待できるとき」(18.2%)と続く。一方、「参加したいと思わない」(20.0%)も一定数いる。

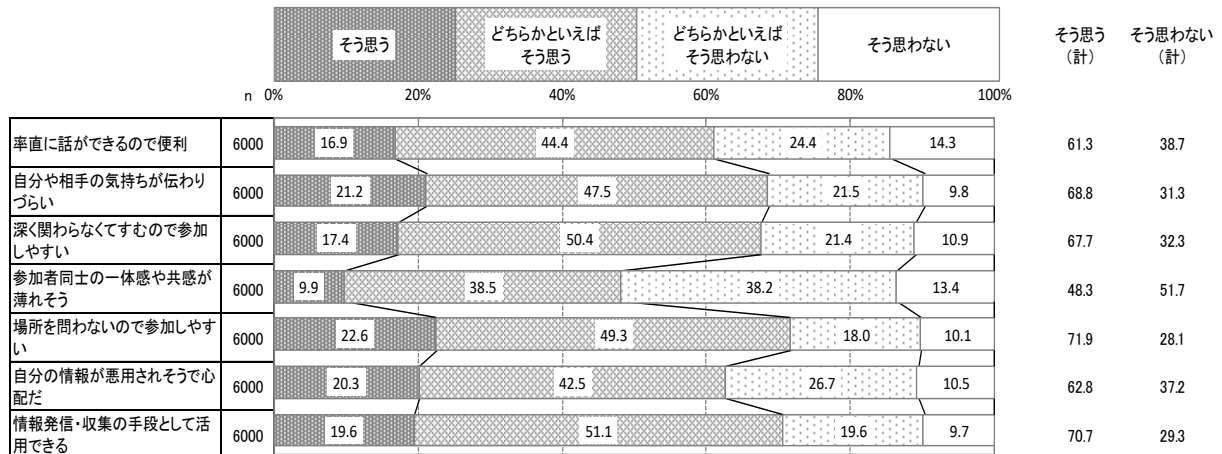
図 18



（４）他者と行う活動でのインターネット利用

他者で行う活動でのインターネット利用として、「そう思う(計)」が最も高いのは“場所を問わないので参加しやすい”(71.9%)。次いで“情報発信・収集の手段として活用できる”(70.7%)、“自分や相手の気持ちが伝わりづらい”(68.8%)と続く。一方、「そう思わない(計)」が最も高いのは、“参加者同士の一体感や共感が薄れそう”(51.7%)、次いで“率直に話ができるので便利”(38.7%)、“自分の情報が悪用されそうで心配だ”(37.2%)と続く。

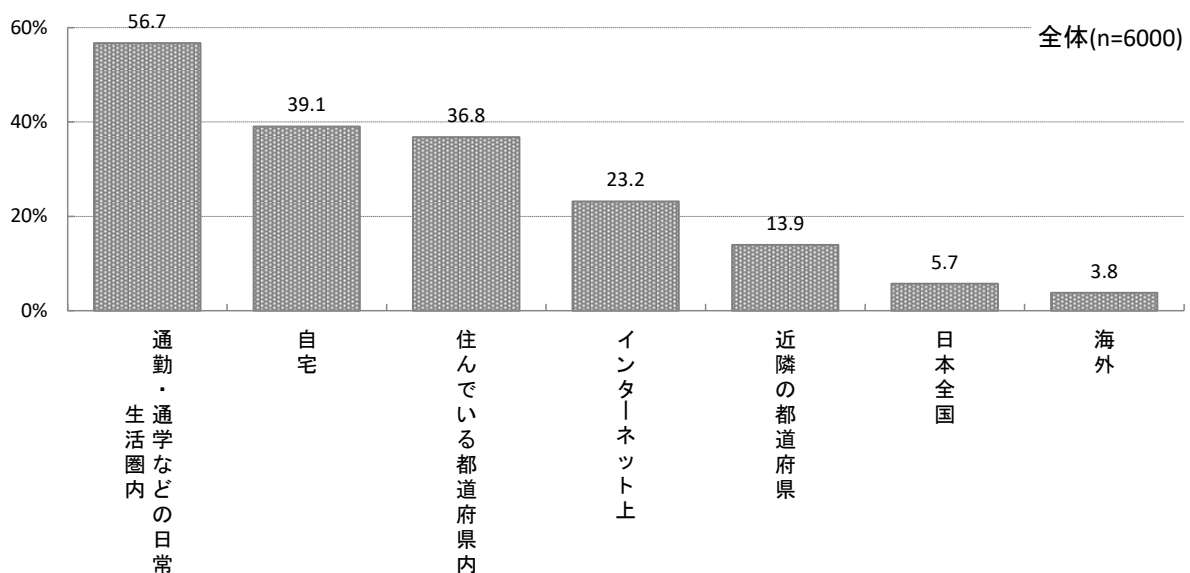
図 19



（５）他者との活動に参加したいと思える場所

他者との活動に参加したいと思える場所について、「通勤・通学などの日常生活圏内」(56.7%)が最も高く、次いで「自宅」(39.1%)、「住んでいる都道府県内」(36.8%)、「インターネット上」(23.2%)、「近隣の都道府県」(13.9%)、「日本全国」(5.7%)、「海外」(3.8%)と続く。

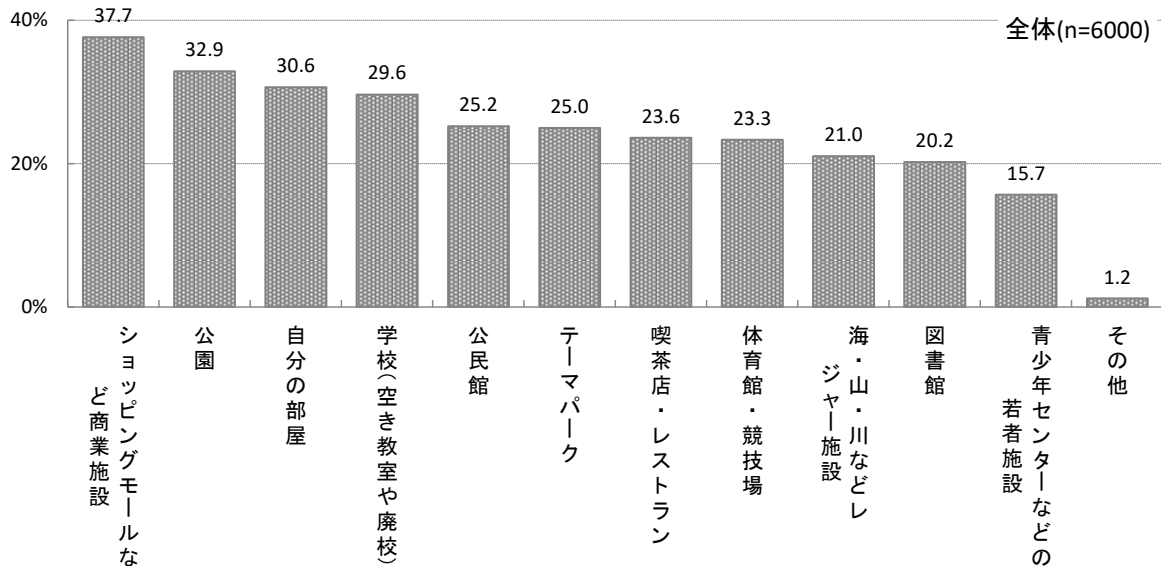
図 20



（６）他者との活動を行えると良いと思う場所

他者との活動が行えると良いと思う場所について、「ショッピングモールなど商業施設」(37.7%)が最も高く、次いで「公園」(32.9%)、「自分の部屋」(30.6%)、「学校（空き教室や廃校）」(29.6%)、「公民館」(25.2%)、「テーマパーク」(25.0%)と続く。

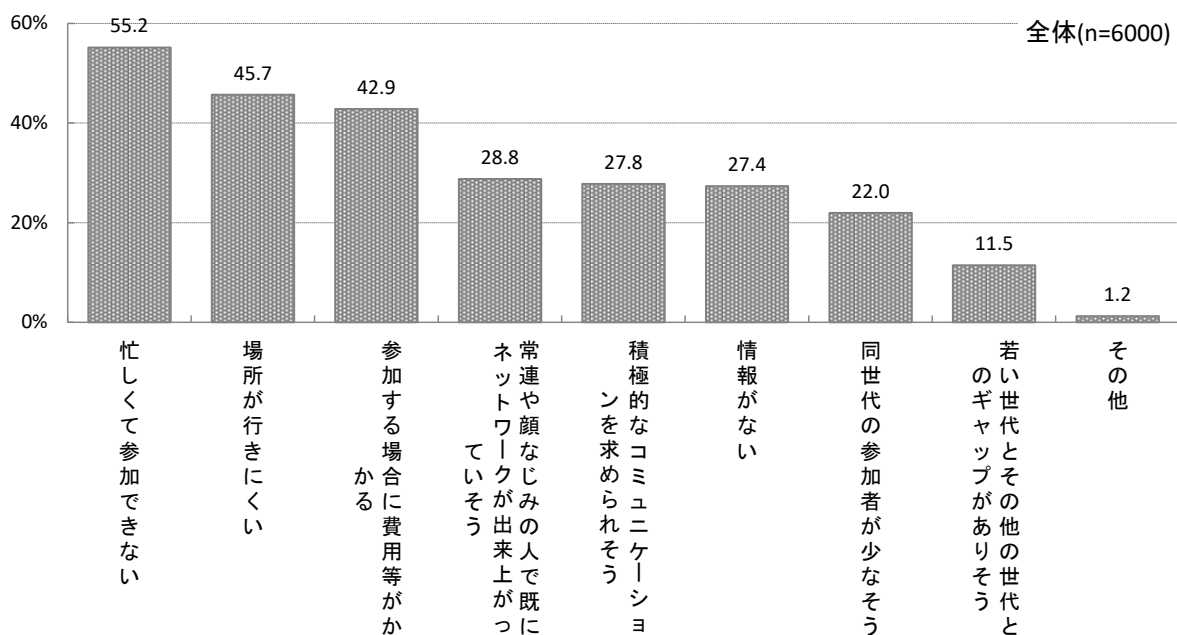
図 21



（７）他者との活動への参加で支障となること

他者との活動への参加で支障となることについて、「忙しくて参加できない」(55.2%)が最も高く、次いで「場所が行きにくい」(45.7%)、「参加する場合に費用等がかかる」(42.9%)、「常連や顔なじみの人で既にネットワークが出来上がっていきそう」(28.8%)、「積極的なコミュニケーションを求められそう」(27.8%)、「情報がない」(27.4%)、「同世代の参加者が少なそう」(22.0%)と続く。

図 22

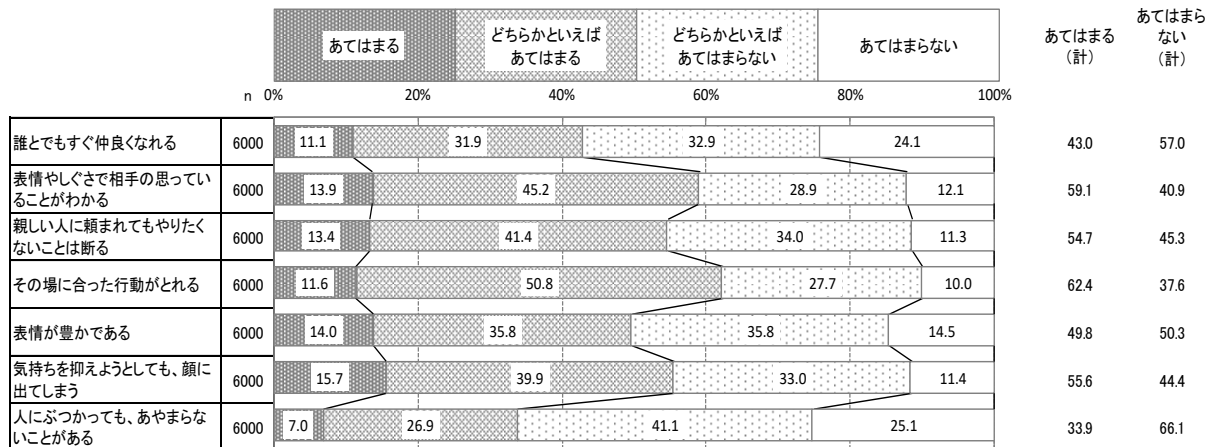


1 1 他者との関係性自己診断

(1) 他者との付き合い方

他者と付き合う際の対応として、「あてはまる(計)」が最も高いのは“その場に合った行動がとれる”(62.4%)。次いで“表情やしぐさで相手の思っていることがわかる”(59.1%)、“気持ちを抑えようとしても、顔に出てしまう”(55.6%)と続く。一方、「あてはまらない(計)」が最も高いのは、“人にぶつかっても、あやまらないことがある”(66.1%)、次いで“誰とでもすぐ仲良くなれる”(57.0%)、“表情が豊かである”(50.3%)と続く。

図 23

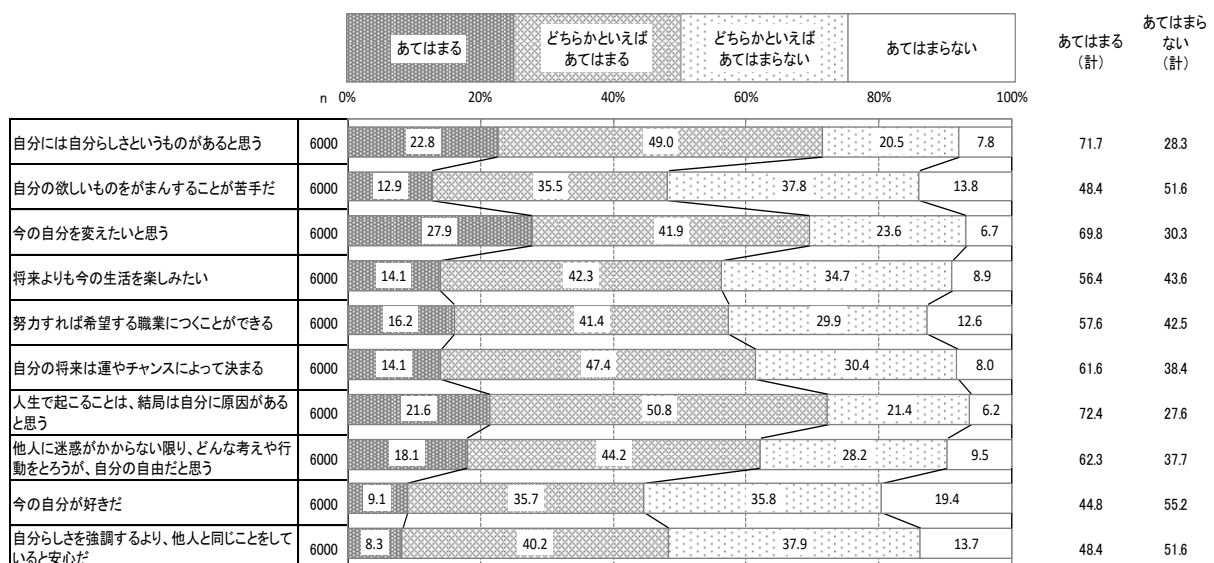


1 2 自己診断

(1) 自己診断

自己診断として、「あてはまる(計)」が最も高いのは“人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う”(72.4%)。次いで“自分には自分らしさというものがあると思う”(71.7%)、“今の自分を変えたいと思う”(69.8%)と続く。一方、「あてはまらない(計)」が最も高いのは、“今の自分が好きだ”(55.2%)、次いで“自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ”、“自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ”(51.6%)と続く。

図 24

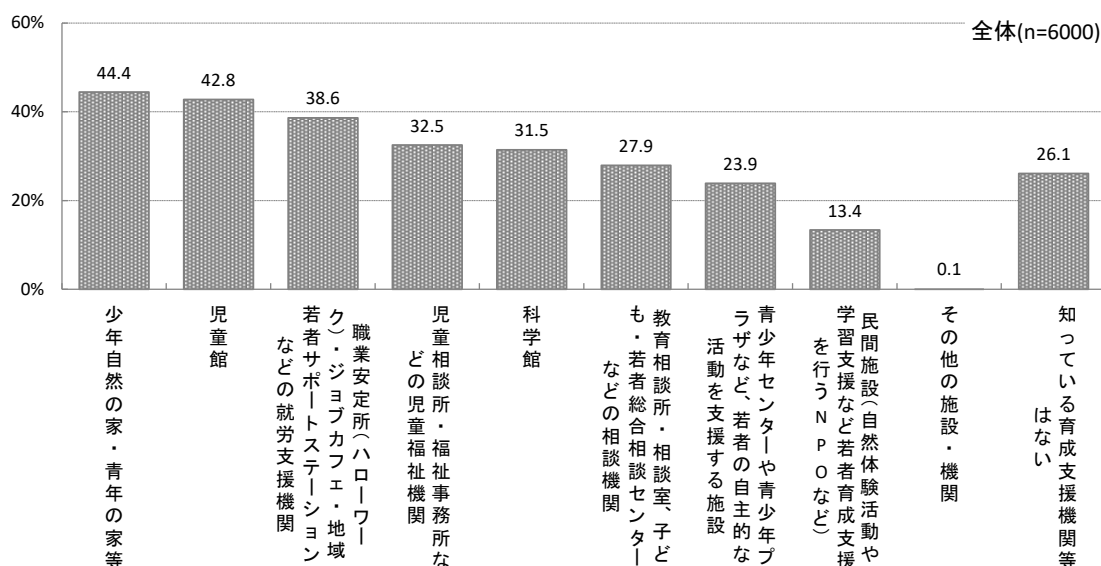


1 3 育成支援機関等の認知度と利用状況

(1) 育成支援機関等の認知度

育成支援機関等の認知度について、「少年自然の家・青年の家等」(44.4%)が最も高く、次いで「児童館」(42.8%)、「職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(38.6%)、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」(32.5%)、「科学館」(31.5%)、「教育相談所・相談室、子ども・若者総合相談センターなどの相談機関」(27.9%)と続く。また、「知っている育成支援機関等はない」(26.1%)も一定数いる。

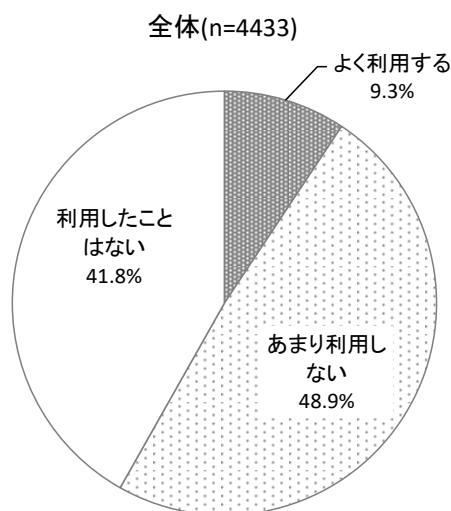
図 25



(2) 育成支援機関等の利用状況

育成支援機関等の利用状況について、「あまり利用しない」(48.9%)が最も高く、次いで「利用したことはない」(41.8%)、「よく利用する」(9.3%)と続く。

図 26

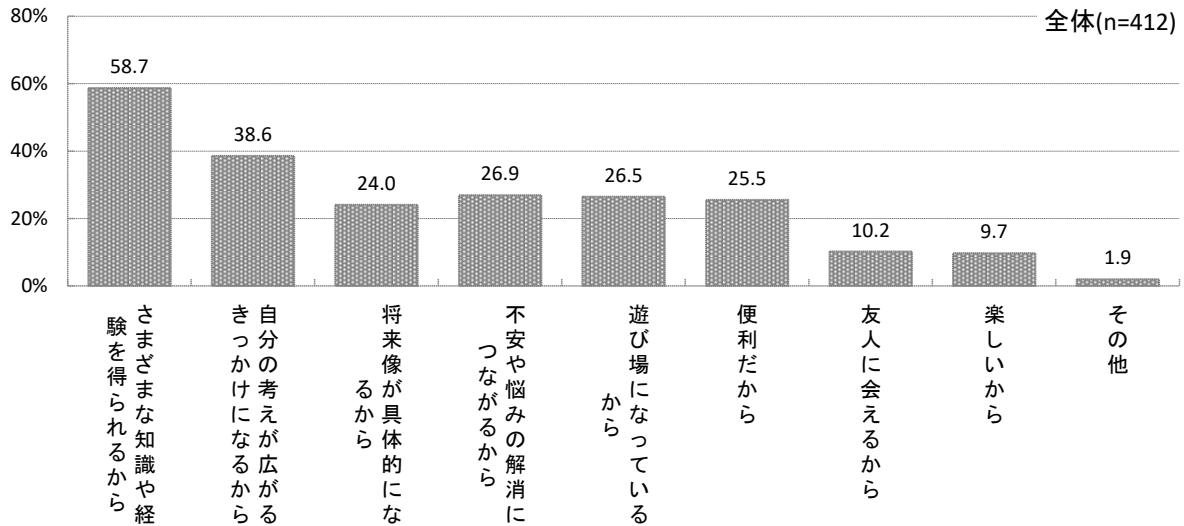


※Q32 でいずれかの育成支援機関等の認知者のみ回答。

（３）育成支援機関等を利用する利点

育成支援機関等を利用する利点について、「さまざまな知識や経験を得られるから」(58.7%)が最も高く、次いで「自分の考えが広がるきっかけになるから」(38.6%)、「不安や悩みの解消につながるから」(26.9%)、「遊び場になっているから」(26.5%)、「便利だから」(25.5%)、「将来像が具体的になるから」(24.0%)と続く。

図 27

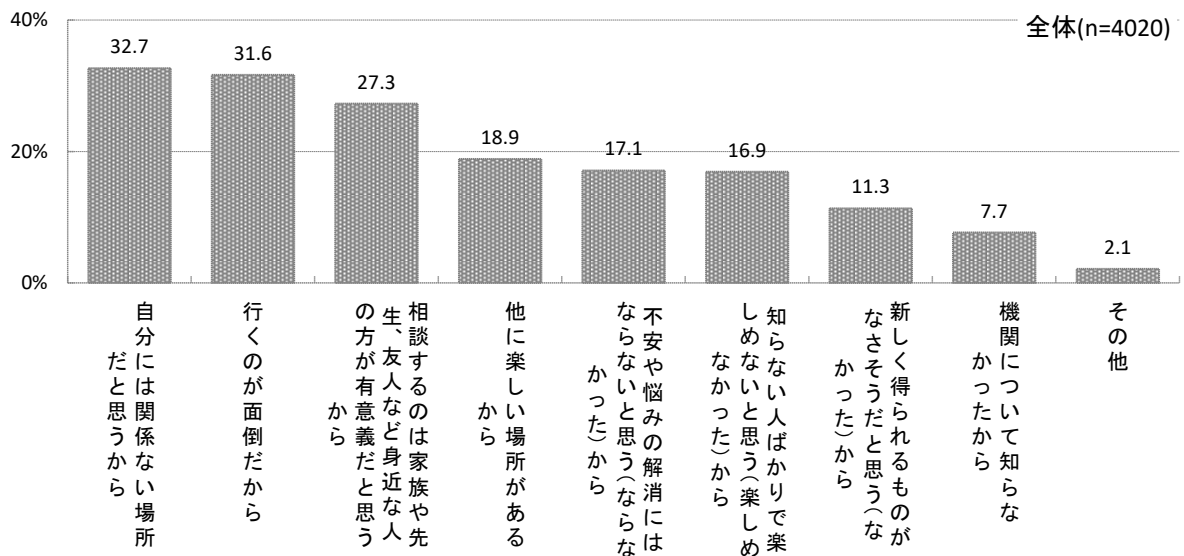


※Q33で「よく利用する」との回答者のみ回答。

（４）育成支援機関等を利用しない理由

育成支援機関等を利用しない理由について、「自分には関係ない場所だと思うから」(32.7%)が最も高く、次いで「行くのが面倒だから」(31.6%)、「相談するのは家族や先生、友人など身近なの方が有意義だと思うから」(27.3%)、「他に楽しい場所があるから」(18.9%)、「不安や悩みの解消にはならないと思う(なかった)から」(17.1%)、「知らない人ばかりで楽しめないと思う(楽しめなかった)から」(16.9%)、「新しく得られるものがないと思う(なかった)から」(11.3%)、「機関について知らないから」(7.7%)と続く。

図 28



※Q33で「あまり利用しない」「利用したことはない」との回答者のみ回答。

1 4 10年後の将来像

(1) 10年後の将来像

10年後の将来像として、「あてはまる(計)」が最も高いのは“何でも話せる人がいる”(65.8%)。次いで“共通の趣味を持った仲間がいる”(65.1%)、“自分の収入で暮らせる仕事についている”(57.6%)と続く。一方、「あてはまらない(計)」が最も高いのは、“周りの人や社会の役に立っている”(49.0%)、次いで“なりたい自分に近づいている”(43.3%)と続く。

図 29

